

# みどりの ニュースレター 4

21世紀 地球を、地域を、生活を、  
持続可能な豊かさに

2006  
No.155

## 特集：春だ！ はじめようボランティア 環境市民で



特定非営利活動法人

環境市民

Citizens Environmental Foundation - since 1992 -  
<http://www.kankyoshimin.org>

¥100

# みどりの ニュースレター



No.155

2006年 4月号

Citizens Environmental Foundation



今月の表紙……

バラエティに富んだ環境市民の活動の数々。

**コレため!** コレ、  
ためしてみました。

毎月エコロジカルなライフスタイル・グッズを  
スタッフが体をはって実践レポートします!



コレため! File no.10

バッグの中からエコ生活  
～新学生・新社会人に寄せて～

文/ニュースレター編集部  
山形 七日

出張に講演にと日々多忙な環境市民の事務局の人たちに、エコ生活を送るためにいつもバッグに入れているグッズはないかと見せてもらった。マイ箸・買物袋は常に携帯!

すぐにいるんなものを包めてコンパクトに畳める風呂敷、自動販売機に頼らずおいしい飲み物を飲むための水筒、布や竹皮の手製箸袋なんて洒落たのを持つ人も。近頃は蓋で密閉できるようになっている携帯マグ、可愛いポーチ入りの折り畳み式買物袋なんてのも売り出されている。(でもわざわざ買わずとも使い古しの小銭入れにでも入りそう……。) エコグッズはコンパクト、軽量で、持ち歩いて楽しいものになっているようだ。これらのうち2点でも3点でも、出かける先に応じてセットしてみてもはどうだろうか? 大抵ひとつにまとめてバッグの端やポケットに収まる程度だ。告白するとマイ箸を持ったことのない私。どんな気分になるのかとマイ箸をバッグに入れショッピングセンターに買物に出かけた。いったい誰が必要なのかと考えてしまうほどの膨大な商品に疲れて飲食店に入る。ついに、マイ箸デビュー! 定食の盆上には割り箸が。バッグのポケットから鶴の絵柄入りの赤い箸を取り出す。少し嬉しい。

箸にしても水筒にしても自分のものを使うことによって外に向けて何かをアピールしている気分。買わされているのではなく必要なものを自分が選んで買うんだと、選択する目ができてくる。生活も新たに春、バッグの中から“大人”になろう!

## CONTENTS

**コレため!**

バッグの中からエコ生活 ～新学生・新社会人に寄せて～

…02

**特集: 春だ! はじめようボランティア  
環境市民で**

…03-07

**とれたて! 環境市民 スペシャル!** …08-09

イベントカレンダー

旬のぶちメモ

講演のご案内

…10

**みんなでエコろう! 行事案内**…10-11

**地球のなかま**…12

第10回 コウノトリとともに暮らすまちづくり (豊岡の挑戦)  
後編 兵庫県豊岡市のコウノトリ野生復帰のこころみ

隔月コラム **ミュンスター便り**…13

vol.5 コンサートや株の購入で自然保護に参加

**みんな集まれ! わいわいひろば**…14

4月のテーマ: あなたのボランティア・スタイル

**1/ 環境市民**…15

伊藤 浩樹さん

**今月のありがとう**…16

新入会員インタビュー・新入会員・寄付他





# 特集：春だ！ はじめようボランティア 環境市民で



左から早瀬氏、枚本、山田

ボランティアって何でしょう？ 環境市民でボランティア活動をする魅力や意義やどんなところにあるんでしょう。自らも長年ボランティア活動をされ、現在、社会福祉法人大阪ボランティア協会事務局長の早瀬 昇さんと、環境市民代表理事の枚本 育生が対談をいたしました。この春から、環境市民でボランティアをやってみようかなあと考えている方は必読です！

- 対談 早瀬 昇氏（社会福祉法人大阪ボランティア協会事務局長）  
枚本 育生（環境市民代表理事）
- 聞き手 山田 岳（ニュースレター編集部）

【以下 名字のみで表記】

## ●今思えばボランティア

山田：まずは、お二人のボランティア経験から教えていただけますか。

早瀬：1973年に大学に入って、以前から関心があったベ平連<sup>\*1</sup>に入ろうと思っていたら、和平になってベ平連が解散したんですよ。代わりに何かしたいと思っていた時に、真夜中に大阪のまちをゆっくり歩こうというイベントがあったんです。おもしろそうだなあと考えて説明会に行くと、車社会の中で交通遺児が生まれている社会のあり方を考え直そうという趣旨のグループでした。その団体「大阪交通遺児を励ます会」の活動の拠点が（今勤めている）大阪ボランティア協会<sup>\*2</sup>でした。イベント当日は事務所で留守番をする役割でしたが、これが私の人生を変えました。大学の1年生が問い合わせの電話をかけてくる新聞社やNHKの記者と話す。そのとき「僕は世の中を変えているんじゃないか」と思ってしまったんです（笑）。

枚本：僕はボランティアってやったことがないですね。というか（活動はしていたけれど）ボランティアという意識を持ったことがなかったですね。大阪に高校生ベ平連というのがありまして、毎週のようにデモをしていました。小中学生のときの公害の悲惨さなどを知ることになって、そこにベトナム戦争（が勃発）でしょ。人がいともたやすく殺されたり、死んだりむちゃくちゃだなあと思ったんです。子どもっぽいかもしれないけどいわゆる正義感ですよ。デモをやっているときは高揚感があるんですよ。同じ思いの人と一緒に行動しているからね。でもやりながら自分でどこかに疑問があるんですよ。こんなことしても世の中変わらないんじゃないか、ってね。僕も、大学に入って社会的なことをやろうかなと思っていたら、和平でもう終わっていた。僕は完全に「シラケ」てしまって、在学中は学園祭の実行委員事務局というのをやっていた。

早瀬：それもボランティアですよ。

枚本：実は卒業後に、海外移住を計画していたんですが、在学中にオイルショックがあって、移住したいと思っていた国が海外からの労働者を受け入れなくなり人生が変わってしまったんです。でも利益を追求する民間

企業は、どうしても公害の印象があったので、「でもしか」公務員になりました。公務員として環境部局の仕事を担当したけど役所じゃなかなか変わらないなあと思ってた環境の市民活動をするようになっていました。

## ●ボランティア活動は恋愛と似ている！？

早瀬：これから始める人に知っていてほしいんだけどボランティア活動っていうのは、恋愛とよく似ているんですよ。だって無償ですということすごく特殊な感じがするけれども恋愛も無償ですからね。しかも対象を選ぶ基準も、好きやからなんですよ。もう一つ、機能よりも存在に意味があるんです。機能性では企業の方が高い場合が多い。でもね、たとえば児童虐待を受けて心がつぶされている子どもを前に、お父ちゃんに対してこんなことをしたらいいんじゃない、なんていろいろアイデアをいうより、隣でね「困ったね、辛いね」って一緒にため息をつくほうがずっと意味があるんですよ。恋愛でも相手のしんどさが自分のしんどさになり、相手の喜びが自分の喜びになるってところがあるじゃないですか。自分のことだけ考えたらうまいこといかないとかね。とても似ている。違うのは、恋愛は「世界は二人のため」でしょ。ボランティアは二人だけじゃない、ちょっと広がっているんですよ。

## ●世界がぐんと広がる！ ボランティア

山田：春にボランティア活動始める学生も多いと思うのですが、学生がボランティア活動をする魅力って何でしょう？

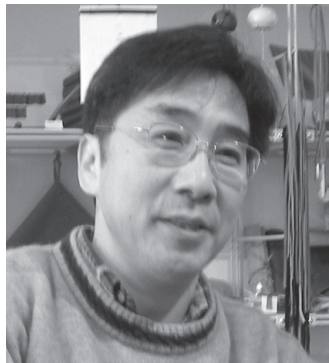
早瀬：よく転勤した家族が地域になじむ一番簡単な方法は地域でボランティア活動に参加することって言うでしょ。人間関係をつくれるからね。学生時代にボランティア活動にかかわることのおもしろさの一つは、一挙に世界が広がることです。私がかかわっていた大阪交通遺児を励ます会は全国組織だったので年に3、4回全国の人が集まるわけですよ。これはおもしろかったですよ。

枚本：今は世代の違う人と会いにくい時代ですが、環境市民では大学で絶対会えない人、多様な経歴の人や世代を超えた人たちと出会えますよ。

## ●シルバーボランティア活躍の時代来る

**山田:** 団塊の世代の人たちがそろそろ企業から卒業する時期を迎えてボランティアでもはじめようかなあと考え始めていると思うのですが。

**早瀬:** 地域社会で活動すると、すぐぶつかっちゃうんですよ。地域での活動って、効率性などを考えている人からすれば非効率さわまりない面があるでしょ。だから環境市民のように地域を超えて、一つのテーマに共感する人々が作る団体の方が(最初は)つきあいやすいんじゃないかと思います。地域のことは知らなくて



も、社会や機能的な段取りは知ってますからね。

**枚本:** 会社とはぜんぜん違う世界と思うかもしれませんが同じ人間の社会ですからね。まあ、上司がいて部下がいるっていう関係じゃないですけどね。

**早瀬:** 出荷伝票とか、入庫伝票とか「伝票システム」を退職された方につくってもらったことがあるんですが、それは見事です。こんな企業人でないと作れないでしょう。企業人のノウハウはすごいですよ。

**山田:** 確かに NGO に足りないノウハウがありそうですね。

## ●ボランティアとは、市民とは何ぞや

**山田:** ボランティアってつまるところどんなものだとお考えですか。

**早瀬:** ほっとかれへん、ということかなあ。社会的な恋愛とも言えるし。語源からしたら「したがり」ですよ。

**枚本:** 社会的に「ほっとかれへん」と「やりたい」というのがまざったような感じかなあ。やりたいことをやっているんだけど何でも好きなことだけをやっているかというところじゃないしね。

**山田:** 環境市民でもボランティアというのは「ほっとかれへん」「やりたい」の向こうに何かがあるような気がします。

**枚本:** そうですね。環境市民がいうボランティアというのは、主体者つまり、いわゆる社会的経済的な主体者「市民」であるという意味合いがあります。だから責任もあるけど権利もある。責任と言っても日本社会でいう腹を切れという類のものではありません。私たちは将来世代、第3世界に対して環境問題が起こしている、同時に私たちも幸せになりたい。その意味で、行動する権利と責任があるわけです。でも結局はやりたいからやってるんだけど、一方でほっとかれへんという気持ちがある。この意味でボランティアというのは市民活動からそう遠い言葉ではないと思っています。

## ●とにかくまずは参加してみよう!

**山田:** これからボランティア活動を始める人たちにメッセージをお願いします。

**早瀬:** ボランティア活動の座右の銘は「だめでもともと」。あんまり強い自負心を持ちすぎてもあかん。フットワークが大切です。フットワークって何かというと、腰の軽さですよ。おもしろそうだなと思ったら行ってみたらいい。そして、フットワークの足し算がネットワークになるんですよ。

**一同:** おおっ (拍手)。

**山田:** 最近寄附を集めたけどどうしようとか、ボランティアをしたいけど何かありませんとか本末転倒のようなアプローチもありますよね。

**早瀬:** いいんですよそれで。彼女をみつきたいから、でもいいんです。できることから見つけていったらいいんです。例えばタクシーの運転手さんは二種免許がいかせることをやったらいい。それが環境であっても、福祉であってもいいんです。昔、「一点突破の全面展開」という言葉があってね、どこか一つから入っても広がっていくんですよ。

**枚本:** 動機はなんでもいいんです。社会的に何がしたいというのがあってもいいし、なくてもいいし、自分に何ができるのかな、ということから入ってもいい。とにかく参加してみて、ちょっと違うかなと思ったらやめたらいい。僕は環境市民に来た人にね「いつでも入れるし、やめられる」と言うんです。たくさんプロジェクトがあるからどれがいいかなって最初から分からないしね。活動はいろいろあるのでぜひ一度のぞいてみてください。



**早瀬昇氏**…1955年大阪府生。大学入学と同時に「大阪交通遺児を励ます会」の活動に参加。以後さまざまなボランティア活動に参加。1995年阪神・淡路大震災発災時には、全国の市民団体と連携し、「被災地の人々を応援する市民の会」を結成。1991年より社会福祉法人大阪ボランティア協会理事、事務局長に就任。NHK「GO! GO! ボランティア」コメンテーターなども務める。著書に『企業人とシニアのための市民活動入門』(単著・大阪ボランティア協会、2005年)他多数。

### 【注釈】

※1 **ベ平連**…正式名称は「ベトナムに平和を!市民連合」。日本における代表的なベトナム戦争反戦平和運動団体。運動団体といっても規約も会員名簿もなく、何らかの形で平和運動に参加した人や団体をこう呼んだ。作家の小田実氏らが1965年に始めた。

※2 **大阪ボランティア協会**…1965年に誕生した全国初の市民活動サポートセンター。市民主体で運営され、NPOやCSR、コミュニティビジネスなどの分野でも事業を展開している。URL <http://www.osakavol.org/index.html>



### ● Special thanks

取材にあたりましては、オーガニックカフェ KAKURA さんにご協力いただきました。

URL <http://www.kakura.ne.jp/>



聞きました!

## 環境ボランティア活動の魅力って何?

学生や社会人といった立場を超えて活躍する環境ボランティア活動のリーダーに、活動をはじめたきっかけや、環境ボランティア活動の魅力、意義、そしてこれから環境市民で活動をはじめようとする人へのメッセージを聞きました。



やすあき  
**宮本 育昌**さん コーラル・ネットワーク 事務局  
富士ゼロックス株式会社 端数倶楽部 自然環境保護部会リーダー

コーラル・ネットワーク：1998年5月設立。リーフチェック<sup>\*1</sup>を日本で推進するために活動しているNGO。  
端数倶楽部：毎月の給料と各期の賞与の「端数」（100円未満の金額）に、個人の自由意志による拠出金をプラスし、会員が必要と考える福祉、文化・教育、自然環境、国際支援の4分野で、その資金を有効に活用する社内のNGO。

### ●楽しいと思えることから始めよう

もともと田舎育ちで、子どものころから虫、鳥、花などが好きでした。大学生になってからは、全国各地の風光明媚な土地を回り、素晴らしい自然を体験してきました。しかし一方で、その素晴らしい自然が破壊されていくのも目の当たりにしてきました。子どものころから好きだった自然が壊されていくのをただ見ているだけではなく、自分でも何とかしたいと思い、自然環境保護活動を始めました。1998年に、趣味のスキューバダイビング活動を自然保護に活かせる「リーフチェック」を知り、活動に参加しました。それからずっと、「将来、今と同じ、もしくはそれ以上に素晴らしい海を子どもや孫と一緒に楽しみたい」と思い、今も精力的に活動を続けています。今ではこのようなボランティアは人生において欠かすことのできない活動の一つですね。気張らなくてもできますが、使命のために目一杯頑張ることもできるという、自主性に委ねられていることがよいですね。

現在、富士ゼロックス（株）に勤務しながらNGO活動を続けています。会社勤めをしながらNGO活動する利点はいろいろとあります。まず一つは、会社で身に

付けたスキルの多くをNGO活動にも活用できる場面がたくさんある点ですね。それから、NGO活動で何か相談したいことがあるときに、仕事を通じた幅広い年齢層や専門性を持った人とのネットワークを活用できる点も挙げられます。価値観の面においては、NGOとしての価値観だけでなく、より多くの人々のさまざまな価値観に触れることができる点も利点の一つです。

環境市民との関係は、今年1月に行われた「地球環境市民大学校 NGOと市民の集い」のシンポジウムにパネリストとして呼んでいただいたことに始まります。これまでにメーリングリストやメールマガジンなどでお名前は拝見していました。「組織立った活動を精力的にされているな」という印象がありますね。

ボランティア活動は、無理せず自分が楽しいと思えることから始めてみましょう。楽しいと長続きしますし、スキルアップも早いですよ。最初は小さな活動でも、その積み重ねがより良い社会を築いていくと信じています。

<sup>\*1</sup> リーフチェック：全世界で行われているボランティアによるサンゴ礁の調査。



**遠藤 明子**さん  
京都市ごみ減量推進会議 リユースびん事業化活動小委員会

京都市ごみ減量推進会議：市民・事業者・行政が協力してごみ減量に取り組むための連絡組織。1996年11月発足。地域にあったごみ減量に取り組む地域ごみ減量推進会議の設立・活動支援やごみ減量についての調査・研究などを行う。

### ●「なぜ？」を大切に 多くの仲間とはじめよう

友だちに誘われて1980年代に「使い捨て時代を考える会」に参加したのが市民活動にかかわりはじめたきっかけでした。京都市で集めた空き缶はどこへ行くのか、空き缶の引き取り業者などを調べたり、ときに

は福井県の方まで調べに行ったりしました。かれこれ20年ぐらいごみ問題をやっています。ちょっとしたきっかけからここまで活動を続けてきたのは、最初に高月先生や植田先生といった聡明な知性に出会えたことが大きかったように思います。<sup>\*1</sup>先生方は心の底か

らごみの問題を考えて行動していらっしやいましたし、自分が勝手に思いこんでいたことに気づかされることもしばしばでした。京都は大学が多く、専門家（大学の先生）と市民と一緒に活動できるというのもいいですね。

この会での経験のおかげで、ものごとをトータル（生産から廃棄段階まで）で見える目が育ちました。だから、例えば牛乳パックにしても、パックの素材となるパルプはどこからくるのか、リサイクルされた後はどうなるのか、そういったことを考えながら「瓶に入っている牛乳がいいのではないか」というところに行き着きました。瓶をリユースしている東京の生活クラブ生協などへも調べに行きましたよ。机の上ではなく現場に行って自分の目で確かめないとね。リユース瓶の仕組みづくりは、びん商さん<sup>\*2</sup>や行政はそれぞれの立場があって思いはあってもなかなか進められません。市民だからこそコーディネートできることもあるんですよ。

これからボランティアを始める人にも「なぜ？」を大切にしたいですね。「世間はこう言っている」けど「なんでそうなん？」と思う気持ち。これを追求し

続けていくことが大切なのではないでしょうか。私は最近、「びん商さんより瓶のことを知っている」と言われますが、なろうとしてなったわけではなく、「なぜ？」と思うこと、知りたいことを追求していったらこうなったんです。生涯勉強ですね。それから「個」でやらないこと。一人でやっていると思ひ込みの世界に入りがちなので、いい友だち、仲間をつくるのが大切です。

打ち上げ花火のような活動も（団体によっては）あるけれど、環境市民の活動は地道に活動を続けていてすごく社会的に大切な活動をしているなあと感じています。ずーっと維持し続ける活動も大事ですよ。

※1 高月先生…高月 紘（たかつき・ひろし）氏…石川県立大学教授。京都市ごみ減量推進会議会長。1941年生まれ。京都大学教授などを経て現職。「ハイムーン」のペンネームで環境まんの執筆活動でも有名。

植田先生…植田 劭（つちだ・たかし）…京都精華大学教員。使い捨て時代を考える会理事長。1935年生まれ。京都大理学部卒業後、同大学院、同大工学部などを経て現職。

※2 びん商…空き瓶をリターナブルびんとして回収し、酒類・飲料・調味料メーカーに納める業者。空き瓶のリユースには欠かせない存在。



## 溝口 典仁さん

エコ・リーグ（全国青年環境連盟） 関西事務局 事務局員

エコ・リーグ：1994年8月に発足した青年環境NGO。環境問題に関心のある青年を対象にしたイベントを定期的に行っている。

### ●自分の経験を多くの人に伝えていきたい！

環境に興味を持ったのは高校生のころですね。家の前に川が流れていて、そこにゴミがたくさん落ちていました。当時はあまり気分のいいものではなかったけれど、何から始めたらいいのかわからず、結局、川の清掃をするという行動に移すことができなかったのです。そこでのもどかしい経験から、環境というものに興味を持ち始め、勉強したいなと思って、「環境」という名のついている学科に入ったのですが、環境について勉強することはなかなかできませんでした。それで環境系のサークルに入り、活動を始めました。

大学1年生のときに、エコ・リーグ主催の環境グループの合同新歓に出席しました。そこには、これまでの自分では考えられないような熱い思いを持って行動している人がたくさんいて「コイツらすげえ」と純粋に思いました。その時は特に「これがやりたい！」という確固たる思いはなかったのですけれど、とにかく何かやってみようと思って、エコ・リーグの運営スタッフとして活動するようになり、3年生のときにはギャザリング<sup>\*1</sup>の実行委員長もしました。そのときのテーマは「発見」です。僕はNGOでの活動を通して多くの人と出会い、関東や九州にもネットワークが広がっていききました。こういうことはNGO活動をしていないとなかなかあり得ないことですよ。多くの出会

いを通して、いろいろな考えがあることを実感し、そこから学んできたことがたくさんあります。そのような自分の経験を多くの人にも「発見」して欲しいという思いがあって、ギャザリングのテーマをこれにしました。他にも「自分スタイル」というテーマのギャザリングも行いました。それは、いろいろな考えを「発見」した上で、自分の考え、つまり「自分スタイル」を大切にしてほしいという思いがあったからです。環境問題は、気候や景観、国際問題など幅広い分野であるがゆえ、そこにはさまざまなニーズや考え方があっていいと思います。それぞれを大切に、うまく融合し、よい方向に持っていければいいかなと。

活動を始めた当初は明確な目的がなかった僕ですけど、NGO活動を通して、「こんな考え方があるんだよ」と多くの人に伝え、人と人との橋渡し役になりたいという思いを持つようになりました。これから環境NGOで活動したいなと考えている方も、勇気をもって一歩を踏み出してみたいかでしょうか？そこには、いろいろな出会いが待っています。その出会いを通して、自分のやりたいことがだんだん見えてくることでしょ。

※1 ギャザリング…環境に興味のある学生や社会人が集まってさまざまな分野の環境問題について語り合う合宿形式のイベント。



# 環境市民ではじめよう ボランティア！

理事メッセージ

特集の締めくくりに、環境市民の理事である下村 委津子、鶴岡 朗から、これから環境市民でボランティア活動をはじめの方へのメッセージをお届けします。



## 下村 委津子

### あなたが主役のボランティア

簡単便利に浅く広く、マニュアル化、幼稚化する現代の日本社会の中で、環境市民は手間ひまかけて深く関わり、自らが考え行動する大人の集まりです。

最初にこんなことを書くと「ちょっと引いてしまう」という人もいるかもしれませんが、これこそが環境市民の活動が深くなが〜く支持され、創造力を持って魅力を放ち続けるゆえんだと思います。

環境市民は、「持続可能で豊かな社会・生活」を実現するために、社会のあらゆるセクターに対する提案を実践をとおして行っており、さまざまなプロジェクトが活発に動いています。

「まだ自分でやりたいことがはっきりしているわけではないけれど、自分にもできることはあるはず」という思いをもって環境市民を訪ねてくれる人も多いでしょう。その気持ちの集まりが環境市民の大きな力に

なります。

社会に対する不平不満を言うだけで何も行動に移せなかった私が、環境市民の活動をとおして、自分の夢である「命ある全てのものが安心、安全に心豊かに生き生きと暮せるまちの実現」に関わっていることを実感できました。人や仕組みが、少しずつではあるけれど確実に変わってきているのを目の当たりにしています。それがまた私自身のエネルギーになって、さらなる夢につながります。

私のように、あなたのやりたいことを実現できる場は環境市民かもしれません。環境市民には仲間がいて、集まれる場所があり、縁の下の力持ちとしてボランティアをささえ、ともに活動を進めるスタッフがいます。積極的に関われば関わるほどおもしろいこと、楽しいこと、やりがいのあることがどんどん飛び出してきてワクワクします。

「自分一人が何かしても世間は変わらない」と何もしいより、まずは自分が動いて仲間を増やす。ひとりの行動を仲間と一緒に活動に広げてみましょう。それが「社会を変える」はじめての一歩になるかもしれません。

ぜひとも積極的に「私がやります」のあなたが主役のボランティアの楽しみ方、味わってみてください。



## 鶴岡 朗

20年間の森づくりで、間伐（伐木）は300本を越えたところ

### 環境市民でボランティア 自分のためにはじめよう！

ボランティアって、いったい何だと思いますか？ もともとは「志願兵」という意味の言葉ですが、私は「自ら」という表現でとらえています。ボランティアを始めるきっかけはヒトそれぞれです。「私に何ができるだろうか？」と自問自答して、責任感を持ち活動を始めた方もいらっしゃるでしょう。また、気軽に何となく楽しく居心地がよいので始めた方もいらっしゃるでしょう（私は後者です）。私の場合誰かに背中を押されたということではなく、「自ら」活動に参画したいという意志がありました。団体のためではなく、ヒトのため、自分のためにボランティアをする。「ボランティア＝福祉」と考えるヒトも多いと思いますが、あなたの

実現したいこと、体験すること、学びたいこともボランティアだと考えてください。そうした活動を通してさまざまなヒトと出逢うことが、あなたの財産になります。例えば会社員の場合は仕事で得た知識をボランティアに生かし、ボランティアで体験した（学んだ）ことを仕事に生かせるようにすることが大切です。学生の場合は家庭や学校では体験できないさまざまな年齢の方とのコミュニケーションや、書籍や研究では学ぶことのできない現場のライブ感を大切にしてください。

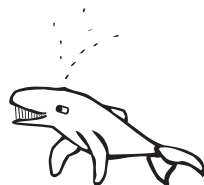
私の好きな『鬼平犯科帳』（池波正太郎著）の第7話「谷中・いろは茶屋」にこんなフレーズがあります。「人間というやつ、遊びながらはたらく生きものさ。善事をおこないつつ、知らぬうちに悪事をやってのける。悪事をはたらきつつ、知らず識らず善事をたのしむ。これが人間だわさ」。「ボランティア＝善事」ではありませんが、生きるチカラや人生の潤滑油のようなモノです。そう、お酒みたいなものかもしれません。（飲み方＝活動）によって百薬の長にもなる。）あなたもボランティア活動を通して、環境市民を「人生の踏み台」にしてください。輝く未来のために、グッドラック！





～環境市民の今、そしてこれからの活動をお知らせします～

# とれたて! 環境市民 <スペシャル!>



## 祝! 環境 goo 大賞受賞!

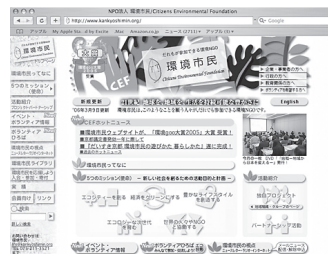
環境市民のウェブサイトがこのほど「環境 goo 大賞 2005」の大賞を受けました。環境 goo 大賞は NGO や企業などの環境に関する情報発信を応援する賞で、活動の詳しい報告と市民や企業、行政が次にとるべきアクションを示す入り口の役割を環境市民のサイトが果たしている点が評価されたものです。

昨年から電子かわら版チームが行ってきたリニューアルでは、サイトの使いやすさや環境市民の活動を分かりやすく伝える工夫をしました。サイトのトップページに「ボランティアを希望する方へ」などと、サイトをご覧になっている方の目的に合わせて適切なページに行けるメニューを取り入れたうえ、「環境市民って何?」には「よくある質問」を載せたりしています。「ボランティアひろば」では会員が投稿できるブログや掲示板を取り入れて約1年間で内容を充実させ、大賞の審査でも「市民参加型のブログシステムの導入と運営

の成功例といえる」と評価されました。

電子かわら版チームでは、「めざせ! 環境 goo 大賞プロジェクト」を約8か月かけて実施、徹底的に使いやすさを追求しました。その結果、昨年受賞の奨励賞(銅賞)を上回る大賞を受賞することができました。選評では「レベル別の取り組みの紹介など、継続的なアクションを促す機能も期待したい」と指摘を受けましたが、電子かわら版チームではサイトをご覧になった皆様のご意見もうかがいながら、ニュースレターや各種報告書のバックナンバーの公開など、より使いやすく情報発信力の高いサイトをめざしていきたいと思っています。

(文/ニュースレター編集部 飯田 康道)



## 「つくる 食べる 知る 考える」 ～地球と人と食べ物のいい関係～を開催

お魚は大好き! でも一匹の魚をさばく勇気がない私。3月5日(日)に開催された「つくる 食べる 知る 考える」～地球と人と食べ物のいい関係～の第2回「旬の魚のエコ料理と魚の話」に参加しました。この講座は、環境市民が発行した『だいすき京都 環境市民の遊びかた 暮らしかた』の出版を記念し、豊かな暮らしの考え方やその実践方法を、日々欠かせない「食」を通じて知り、考えるために企画されたもの。

料理の幅を広げて豊かな食生活を送りたい、と考え参加した私の他、13人の参加者も魚料理の経験値は同様のようで、講師の料理研究家、力石 幸さんが行う小アジの手開き、アジの三枚開きのお手本をみつめる顔は真剣。魚のアラを「堆肥」利用する発想も目からウロコ。いざ実際に自分で開きはじめると、身なのかアラなのかかわからないほどボロボロの状態に。何匹か練習して魚の骨格を考えながら上手に開けるようになると、さらに楽しくなってきます。2時間30分で、アジのつみれ汁、アジのたたき、イカのぼんぼん焼き、とろろめかぶ、

小豆寒天が完成。海の恵みをたっぷりいただきました。

「自分でさばくことで、魚の鮮度や状態がわかり、よりおいしい」という先生の話には、心と舌が納得。また、温暖化による旬の崩壊、地産地消の重要性、魚の保存法、包丁の扱い方など、話題は尽きぬまま時間は過ぎていきました。

今回参加して、普段あまり考えない海産物本来の姿を意識し、食と環境の関係について再認識するよい機会になりました。また、信頼できる流通ルートを確認させることが生産者に対する応援、漁場の活性化につながり、食材をきちんと調理する技術を身につけることが、食文化を守り伝えていくことになるのだ、と実感した一日でした。

(文/環境市民会員 工藤 聖子)



### ●理事会 第3期 第4回(通算25回)開催しました

第3期第4回の理事会が開催され、右記の内容について話し合いました。詳しくは4月号同封の理事会報告をご覧ください。なお、同じ内容を環境市民のウェブサイトでも公開しています。

日 時: 2月27日(木) 午後7:00から9:00



# セミナー『挑戦 地域から日本を変える ～日本の環境首都へのみち～』を東京で開催

3月2日(木)、環境市民主催としては設立以来初めての東京でのセミナー『挑戦 地域から日本を変える～日本の環境首都へのみち～』が開催されました(財団法人ハイライフ研究所との共催)。セミナーの目的は、(1)本誌2月号(P.8)でもお伝えしたDVD「映像版 日本の環境首都コンテスト先進事例集」の成果発表、(2)自治体の創意ある施策と環境首都コンテストについての情報発信、(3)持続可能な社会を創るうえでの課題を提起することでした。

会場は東京・銀座にあるガラス張りの近未来的なビルディング。入館証を受け取り、SF映画のようなエレベーターで最上階の会場へ向かうとダークスーツの男性が多く、いつものセミナーとは違う雰囲気。

セミナーは2部構成。第1部、DVDの上映では、北海道ニセコ町や岡山県津山市の事例が映像で紹介されると、会場のあちらこちらでメモをとる姿も。神奈川県大和市の事例紹介に合わせ、職員の小山祐子さんから「市民協働の仕組みをつくった人たちの想いを次へ引き継いでいくことが課題」との講演がありました。

第2部は、枚本育生代表理事が持続可能な社会の概念、ドイツの環境首都調査から日本での環境首都コンテスト開催までの流れなどを紹介しました。会場



との質疑応答では、「核処理施設を抱えている自治体をどう評価するのか」という難問から「緑被率を表彰対象にしてほしい」という提案まで、つっこんだ議論が交わされました。

終演後も東京で活動しているNGOの人たちが残り、環境市民メンバーと名刺交換。

環境市民の会員拡大や社会的影響力を強めるための足がかりとなるセミナーとなりました。

(文/環境首都コンテストスタッフ 風岡 宗人・山田 岳)

# 「京都自転車マップ 郊外版」出版!

昨年秋に発売し好評の「まちなか版」に続き、「郊外版」を3月に出版しました。

京都を中心に日帰りで行って帰ってこられる範囲を掲載しました。北は美山町、南は木津町、東は滋賀県の信楽、西はるり溪と、人気のサイクリングスポットが入るように決めました。一番長いコースは約100km、「えーそんなに広いの?」と思われるかもしれませんが、元気な人がいい自転車に乗って、少し慣ればこれくらいの距離は走ってしまうのです。そして、「まちなか版」と同様に自転車屋、見どころ、坂道、トイレの場所などの情報が満載です。

自転車の本当のよさは、街中の歩道や車が多い路を走っているだけではわかりません。郊外に出て長距離を走ってみることが一番ですが、「郊外版」はそのお供にぴったり! 長距離サイクリングが人気のヨーロッパで売られている自転車マップをイメージして作ったのですが、日本ではまだ普及しておらず、市街地でのマップが受け入れられやすいと思いついて「まちなか版」を先行して発売しました。

いよいよ春本番。あなたも「郊外版」と一緒に自転車で

ちょっと遠出してみませんか?

(文/自転車チーム ちゃり民 藤本 芳一)

## ●内容

【価格】1部 1,000円(税込)

【形状】63.6×80cmのカラー大判地図/48ページのコース解説小冊子/雨に濡れても大丈夫なビニールケース入り

【入手方法】京都市内を中心に一般書店で販売中。郵送希望の場合は、お名前、ご住所、電話番号、E-mail、「まちなか版」「郊外版」それぞれの希望冊数を明記の上、「京都自転車マップ希望」と記入し、FAXまたは電話、E-mailで環境市民までお申し込みください。

【送料】1冊 180円/2、3冊 290円。それ以上はお問合せください。



会場：ハートピア京都・京都府立総合社会福祉会館 第4会議室

(報告事項) 環境市民ウェブサイト環境goo大賞受賞/『環境市民の遊びかた 暮らしかた』発行/持続可能型環境経営セミナーの終了、自転車マップ郊外版作成の進捗状況/環境マイスター研修(山形県、和歌山県)進捗状況/京都市ごみ減量推進会議リユースびん事業化活動小委員会について/農産規範基準研究会について

(討議/審議事項) ステアリング・コミッティーでの議論を受けた2006年度以降の事業/第5回通常社員総会の日程



## ミーティング&イベントカレンダー

1日(土) 東海 環境小市民 生涯楽習講座 午前10:00から(P11)  
東海 環境市民nagoya cafe 午後7:00から(P11)  
3日(月) ラジオチーム 午後6:30から  
5日(水) ニュースレター編集部 午後6:30から  
6日(木) ニュースレター編集部 午後6:30から  
11日(火) プロジェクト向上委員会 午後7:00から  
12日(水) 電子かわら版チーム 午後7:00から  
13日(木) 首都コンチーム「わいわいEcoCup」 午後7:00から

※グループ/プロジェクト名のみはミーティングです。  
※「●」は京都事務局までお問い合わせ下さい。

13日(木) 自転車チーム ちゃり民 午後7:00から  
15日(土) こもれび倶楽部 午前11:00から午後5:00 ●  
19日(水) ニュースレター編集部 校正日 ●  
20日(木) 自然住宅研究会 午後3:00から  
21日(金) 東海 ぽっとらっくばーてい 午後7:00から(P11)  
23日(日) 滋賀 魚釣り、投網体験 午前10:00から午後2:00(P11)  
27日(木) ニュースレター発送日 午後1:00から

## 旬のメモ

春

あなたの心に季節の窓を。  
旬の話題と暮らし方のヒントを  
お届けします。

### ● vol. 10 ● 4月の花束アスパラ

最近輸入ものも出回っているアスパラガスですが、旬はこの4月。信州や北海道から鮮度抜群の国産アスパラが出荷されます。盛土をして光を当てず育てたホワイトと、光に当てたグリーンの2種類があります。栄養はグリーンの方が豊富。たんぱく質を構成するアミノ酸の一種であるアスパラギン酸には疲労回復の効果

があり、穂先に含まれるルチンは高血圧予防に。アスパラは南欧原産で江戸時代に日本に伝わった当時は鑑賞用だったそう。確かに、牛肉巻きやサラダ、スープ、天ぷらなど豊かな料理パリエーションで春の食卓を飾るアスパラは花束のよう?

(文/ニュースレター編集部 山形 七日)

全国に講演に出かけています。お近くに来た際にはご参加ください。

■ 22日(土) 兵庫県 / 地球規模環境のこと ■ 23日(日) 大阪府 / 守る環境から育てる環境へ

※ 一般参加はできませんが下記の講座にも講師を派遣しています。詳しくは京都事務局へお問合せください。

□ 21日(金) 埼玉県 / 環境省 職員研修

## みんなでエコろう! 行事案内

問合せ・申込み

環境市民

<http://www.kankyoshimin.org>

【TEL】 075-211-3521  
【FAX】 075-211-3531  
【IP電話】 050-3581-7492  
【E-mail】 life@kankyoshimin.org

### ニュースレター編集部リニューアルミーティング 第3弾

ニュースレター編集部では、もっとおもしろく、環境NGOならではの視点を伝えるため、編集体制のリニューアルミーティングを行ないます。今回は第3弾 新体制に向けて具体的な対策を考えていきます。普段からニュースレターを読んでもくださるみなさんの声もぜひ響かせていただきたいと思います。ご参加お待ちしております!

と き: 4月26日(水) 午後6:30から8:30

と ころ: 環境市民事務局

参加費: 無料

申込み: 必要

備 考: はじめての方には午後6:00から簡単な説明会を行ないます。

企 画: みどりのニュースレター編集部

### 第5回 NPO法人環境市民 通常社員総会開催のお知らせ

NPO 法人環境市民の通常社員総会を開催します。2005年度の決算や活動の承認、2006年度の各プロジェクトの活動計画、予定も発表されます。最後は、エコな食べものを用意しての交流会を開催いたします。年に一度の会員の交流の場として、また新たに関われそうなプロジェクトさがしの場として、ぜひご参加ください。

内容(予定):

第1部: 通常社員総会

(議題) 2005年度事業報告および決算報告の承認

2006年度事業計画および収支予算の報告 など

第2部: 2006年度実施プロジェクト紹介  
交流会

と き: 6月18日(日) 午後1:00から5:00(時間は予定)

と ころ: 未定(京都市内)

備 考: 環境市民の総会には、どなたでもご参加いただけますが、第1部の通常社員総会において表決権を有するのは会員のうち「社員」登録した方のみです。

### 「社員資格取得申告」についてのお願い

NPO 法人環境市民定款は、会員のうち社員総会において表決権を有する方を「社員」と定めています。社員になるためには、「社員資格取得申告書」の提出が必要です。

社員資格の取得を希望される方は、次ページのフォーマットに必要事項を記入し、郵送、FAX、E-mailのいずれかで事務局まで送付してください。



※ 2005 年度社員の方へ  
社員資格は 3 月 31 日で期間満了となります。2006 年度も社員登録を希望される場合は下記の継続申告書の提出をお願いいたします。

ご不明の点は、京都事務局までお問い合わせ下さい。

提出締切：5 月 20 日（土）

NPO 法人環境市民定款は、下記 URL で読むことができます。

<http://www.kankyoshimin.org/jp/cef/organization/teikan.html>

社員に関する規定は第 11 ～ 15 条です

### NPO 法人 環境市民 社員資格取得 / 継続申告書

NPO 法人環境市民

代表理事 塚本 瑠一 様

枚本 育生 様

NPO 法人環境市民の社員資格の取得 / 継続を申告します。

2006 年 \_\_ 月 \_\_ 日

住所：〒 \_\_\_\_\_

氏名： \_\_\_\_\_

電話： \_\_\_\_\_

FAX： \_\_\_\_\_

E-mail: \_\_\_\_\_

### 今だ! 始めよう環境市民 春のボランティア説明会

この春、環境市民でボランティア活動をはじめよう! という方を対象にボランティア説明会を開催します。環境市民の活動に関心のある方はもちろんご参加を! 関心のありそうな方にもぜひご紹介ください。

内容 (予定): 環境市民のビジョン、活動の紹介、活動スタイルの相談タイム、他

と き: 【第 1 回】 4 月 20 日 (木)

【第 2 回】 5 月 27 日 (土)

時間は各回とも午後 6:30 から 9:00

ところ: ひと・まち交流館 京都

(京都市市民活動総合センター)

【第 1 回】 第 3 会議室

【第 2 回】 第 1・2 会議室

参加費: 無料

申込み: 不要

定 員: 50 人

主 催: 環境市民

問合せ・申込み

環境市民・滋賀

【TEL】 077-522-5837  
【E-mail】 cefshiga@kankyoshimin.org

### 魚釣り、投網体験

瀬田川の南郷洗堰の側に「ウォーターステーション琵琶」という市民活動の拠点があります。そこを利用して魚釣り、投網の体験をして、午後からは龍谷大学の遊磨正秀先生に

よる「世界のお魚」に関する講演を聴きます。

と き: 4月23日(日) 午前10:00から午後2:00

午前10:00から午後12:00までは瀬田川で魚釣り、投網。午後1:00から2:00まで。

ところ: ウォーターステーション琵琶

JR石山駅から京阪バスで20分、「南郷洗堰」下車徒歩5分。

会場TEL: 077-536-3520

講 師: 龍谷大学 教授 遊磨 正秀さん

参加費: 無料

集合場所・時間: JR瀬田駅の場合は午前9:00

直接ウォーターステーションに来られる場合は午前10:00

持ち物: タオル、弁当

服 装: 濡れてもよい服装

申込み: 必要

問合せ・申込み

環境市民・東海

【TEL/FAX】 052-521-0095  
【IP 電話】 050-3604-6182  
【E-mail】 tokai@kankyoshimin.org

<http://www.kankyoshimin.org/tokai>

### 環境小市民 生涯楽習講座

環境と衣食住をマジメに楽しく楽習する講座です。どなたでも参加できます。地産地消していますか?

と き: 4月1日(土) 午前 10:00 から午後 12:00

ところ: 愛知県江南市

集合場所: 名鉄布袋駅

参加費: 500 円

定 員: 10 人

申込み: 必要

\*好評につき 2 月に引き続き、お水とお米の楽習です。

(新酒の利き酒と酒蔵見学)

### 環境市民 nagoya cafe

運営に関するミーティングを行います。どなたでも参加できます。

今月は 2005 年度の決算と、2006 年度事業計画を発表する予定です。

と き: 4月1日(土) 午後 7:00 から 9:00

ところ: 環境市民・東海 事務局

参加費: 無料

申込み: 必要

### ぽっとらっくばーてい

週末にマイカップと一品を持ち寄り、楽しいひと時を過ごします。会員の方はぜひ友だち(まだ会員でない方)と一緒にご参加ください。

と き: 4月21日(金) 午後 7:00 から 9:00

ところ: 環境市民・東海 事務局

参加費: 無料

申込み: 必要

# 地球の なかま

地球に暮らす生き物との出会い  
センスオブワンダーで心豊かに

センスオブワンダー...

アメリカの作家であり、海洋生物学者でもあったレイチェル・カーソンが、著書「センス・オブ・ワンダー」の中で伝えた自然を感じる感性

## 第10回 コウノトリとともに暮らすまちづくり（豊岡の挑戦） 後編 兵庫県豊岡市のコウノトリ野生復帰のころみ

文／ニュースレター編集部 千葉 有紀子



イラスト 橋本千絵さん



# ミュンスター便り

～ 環境首都の現場から ～

BY AIR MAIL



vol.5

## コンサートや株の購入で 自然保護に参加

文 / 近江 まどか

ドイツ西北部の古都ミュンスターは、面積の70%が自然保護地域や農牧林業用地である。町の中心から郊外に向けて自転車で20分も走ると、のどかな農村地帯が広がっている。自然との触れ合いは、ミュンスターの人々にとっては遠い存在ではなく、自然を守る、創造する活動にも他都市と比較して活気があり、28万人の人口のうち7,500人を超える人々が環境・自然保護団体の会員であり、その活動を支えている。<sup>※1</sup>

NABU（ドイツ自然保護連盟）ミュンスター支部は、自然保護に取り組むドイツで最も大きなNGOの地域支部であり、地域レベルの自然保護活動に積極的に取り組んでいる。ここでは、NABUミュンスター支部による市民への協働のためのアプローチとして2つのプロジェクトを紹介する。

### ●ファンタジー溢れる市民へのアプローチ

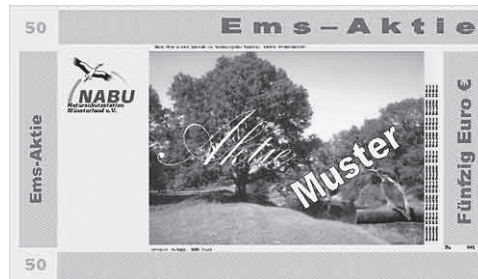


カエルのコンサート  
のポスター

1つ目は「カエルのコンサート（Frosch Konzert）」。といっても、カエルの合唱ではない。昨年の秋に、NABUミュンスター支部が高い評価を受けているノルトラインヴェストファーレン州の州立青年オーケストラの善意を受けて主催したコンサートのタイトルで、ミュンスター市役所のホールで開催された。コンサートの目的は、人間活動の影響により生息地が少なくなってきているアマガエルの保護。シューベルトやベートーベンの音楽が演奏され、300人を超える来場者が美しいメロディーに酔いしれた。

コンサートの入場料は無料だったが、来場者からは合計約56万円の寄付が寄せられた。寄付金によって、NABUはボランティアとともに、アマガエルの生息地となる沼地の整備やビオトープ作りを行った。また今春には、寄付金によって整備されたアマガエルの生息地に市民を招待し、冬眠から目覚めたカエルが「大合唱」する本物のカエルのコンサートを楽しんでもらうイベントを企画している。

2つ目は株式発行による地域保全。ミュンスター郊外を流れるエムズ川の流域には、多様な動植物が数多く生息する湿地帯や牧草地帯が残されている。NABUミュンスター支部はこの地域を保全し、生物多様な自然地域を発展させ



これがエムズ株式  
の株券

るために、これらの土地を長期的に借り上げるプロジェクトを実施している。

これらの資金を調達するために、NABUは「エムズ株式」という制度を作った。これは、NABUオリジナルの1枚7,000円の株式を市民が購入し、1枚で100㎡の土地が保全に協力できるというもの。NABUは株式の収益により、保全のための人件費や事業費を繰り出している。株主は「配当」として、保全地域で定期的開催される「エムズで暮らす動物を知る旅」や「野生のリンゴの収穫祭」といったさまざまな体験プログラムに参加できる。体験プログラムは子どもたちにも人気で、誕生日プレゼントにこの株式を購入する市民もいるという。

### ●自然体験は休暇の楽しみ

ドイツの長い休暇は有名であるが、ドイツ環境省の研究によると、ドイツ人の3人に1人は、自然体験を余暇の重要な要素と考えているという。ドイツ人を見ていると、短い夏の間にも老若男女問わず、リュックサックを背負って自然公園にハイキングに出かけたり、自転車で長旅をしたりと、随分活動的な人が多い。

NABUミュンスター支部の職員は、「自然保護活動は、動植物の生息地を守るだけでなく、私たちの自然への要求も満たすこともできる。さらに多くの人々が、余暇に私たちの活動に楽しく参加できるように、遊び心を刺激するようなプロジェクトを増やしていきたい」と語っている。

※1 ミュンスターは2004年に国連環境計画から「世界一暮らしやすい町」に選ばれ、その評価の一つが、環境保護団体の会員数であった。

■プロフィール 近江 まどか …… 会員。堺市出身。環境をテーマにした視察・ツアーのコーディネーター兼通訳。環境首都ミュンスターでは、地球温暖化対策や自転車政策、環境教育などをテーマにした視察プログラムを実施中。  
【ドイツ環境ジャーナル <http://blog.goo.ne.jp/madokuccia>】

# みんな集まれ！ わいわいわ ひろば

4月のテーマ：

## あなたのボランティア・スタイル

環境市民でボランティア活動をしているみなさんに、ボランティア活動への思い、活動の内容、これからボランティアを始めようという方へのメッセージなどをいただきました。

あなたと  
つくる  
ページです

### 「一人ひとりの行動が大きな力になる」

須波 敏之さん（環境市民活動歴 2年）

朝の仕事前と、夜仕事が終わってから、自宅でできること、ミーティングの資料づくり、活動の整理、メンバーとの諸連絡などを行っています。あまり事務局には来ることができなくても、できることはあります。できることをやっていこうという気持ちと、行動が必要なのかなと。ボランティア一人ひとりができることをできる範囲でやっていけば、大きな力になると思います。

### 「環境市民での活動は異文化交流」

うろりさん（環境市民活動歴 6か月）

私が環境市民の会員になった理由は、定年退職後、家に籠りたくなかった、社会との接点が欲しかった、若い人たちの息吹を感じたかったため。そんなわけで時間の許すかぎり、ニュースレターの発送などに参加しています。体調などで、わがままをしているところもありますが、出欠は明確にするようにしています。若い人たちの中に入る心がけとしては「老害」を出さないように、発言に注意しています。若者はたのしいです。既に老人とは文化が異なっています。異文化交流であり比較文化研究と考えれば面白い時間が過せます。できる範囲で参加していきたいと考えています。

### 「独りではできないことができる！」

原 なおさん（環境市民活動歴 1か月）

環境市民ラジオチームのパーソナリティ、ニュースレター発送のお手伝いをしています。

週に1回の活動ペースは、私にはちょうどよいです。ただ、活動場所と家との距離が遠いので、電車に乗っている時間があったいなと思います。家の近くでボランティアしたかったのだけど、環境市民の活動が一番面白そうだったから、距離と活動内容を秤にかけて、私は活動内容を優先しました。

ボランティア活動は、理想や願い（「人にも地球にもやさしい社会をつくりたいな」）を実現できる行為です。独りで考えているときには、どうしていいのかわからなくて自分を無力だと思ってしまったり、あきらめるしかない問題なんだと思うこともあるとおもいます。でもNPOなどの団体は、活動のノウハウや戦略を持っているし、同じ理想や願いを持つ人と出会うこともできます。理想・願いの実現に加えて、さまざまな技術（コミュニケーション能力・企画・編集など）や人脈まで手に入る機会です。とても素敵ですよ。



### 「まずは参加してみるものがオススメ」

千葉 有紀子さん（環境市民活動歴 9年6か月）

みどりのニュースレター編集部で記事を書いています。自転車チームチャリ民でも活動しています。

ミーティングはやっぱり楽しいです。まずは参加してみるものがオススメ。自分のやりたいこと、できることをちゃんと考えておくといいと思います。いつも意見はちゃんと言うこと。やるときめたらちゃんとやること。できなかったらそれもちゃんと言うこと！ ニュースレター編集部、自転車チームにもっとたくさん人が集まればいいなと思っています。

### お便りコーナー

みどりのニュースレターへのご意見、ご感想を随時掲載します。

私は、福知山にて主人と共に工務店を営んでいます。

建築は、環境建築を旨とし、環境はもちろんのこと、「住まう」ことに着眼して住まいづくりをしています。

「住まう」を考えた時に、家の中で使う生活用品にも気を使ってもらおうと、事務所1階の「えころ」というお店で生活用品を販売しています。

「木」を中心にした物が多く、木のおもちゃにも興味があります。

今月号で紹介されていた木のおもちゃのお店「キッズいわきばふ」に一度行ってみたいと思っています。「木」は、子どもたちの元気を引き出し、かつ安全だ!!と確信しています。

毎号の記事の中で学ぶことが多く、先日も「だいすき京都 環境市民の遊びかた 暮らしかた」の本を送っていただきました。

いつも、いろいろな情報を本当にありがとうございます。

（環境市民会員 / 工務店経営 道下 伊砂江さん）

3月号の特集「自然の中で子どもと遊ぶ大人を増やす、そのおもしろさと意義の深さ」では自分のこれまでの生活を見つめ直すよい機会になったと思います。私は以前、学習塾でアルバイトをしていたことがありますが、こちらから挨拶しても返事をしない、単語を並べるだけできちんと用件を言うことのできない、そのような小学生を目の当たりにしてきました。膨大な情報が渦巻く現在、その情報だけで納得してしまって、探究心を持って自分から何かアクションを起こすといった積極性が感じられない子どもたちが多いように捉えていました。それはよく考えてみると、大人にも同じことが言えるのだということにニュースレターを読んではたと気付きしました。

新しいことがいろいろとスタートする春。これまで自分の中で作ってきた合理性や効率性といった枠をとっぱらって、もっと自然と向き合っていきたい、そう感じた3月号でした。

（環境市民会員 / 久保 友美さん）

➡ ニュースレター編集部まで、メールかFAX、郵送でお送りください

《《《 締め切り：4月30日（日）必着 》》》

● E-mail ●  
newsletter@kankyoshimin.org

● FAX ●  
075-211-3531

〒604-0932 京都市中京区寺町通二条下ル 呉波ビル3階  
NPO 法人環境市民 みどりのニュースレター編集部 宛

環境市民のウェブサイトからも投稿できるようになりました！

●環境市民ウェブサイト URL <http://www.kankyoshimin.org>  
《トップページ》→《ボランティアひろば》→《掲示板一覧の「みんな集まれわいわいわひろば」》と順にクリックしてください。

6月号のテーマは、  
「梅雨のエコ・楽しい過ごし方」です。

募集中

ジメジメ、ジトジトのこの季節。ただ私たちの生活や自然界に欠かすことのできない恵みの季節でもあります。こんな季節をエコに、楽しく乗りこえる工夫、あなたならではの過ごし方を募集します。

読者の皆様とのコミュニケーションを通じてよりよい紙面づくりをめざしています。ニュースレターへのご意見、ご感想もドシドシお寄せください。ニュースレター編集部まで、右記の方法でお送りください。





(環境首都コンテスト聞き取り調査で地域のNGOが街づくりに参加している。その中にとっても前向きな人がいた。おじいさんなのに若々しい。こんなに頑張っている人がいる。そういう人に出会えるのって素晴らしいと思った。

# 編集後記

【編集部】(五十音順)

- 有川 真理子   飯田 康道   上松 健太郎
- 風岡 宗人   加藤 弘典   久保 友美
- 坂本 皆子   鈴木 郁   千葉 有紀子
- 寺西 孝一郎   松村 知樹   安江 晃子
- 山形 七日   山田 岳
- 藤本 芳一 (デザイン・レイアウト)

## 編集を終えて……

さてあなたにとってのボランティアは何でしたか？ 私自身には金銭的報酬なしで人同士がいかにかわるかを学ぶ学校です。現在編集部では体制リニューアル計画が進行中！ 折りしも春。何かやる気がモリモリ出てきたあ！ 新部員がきてくれることを祈っています！

(ニュースレター編集部 山形 七日)

次号  
予告

みどりの  
ニュースレター  
No.156  
2006年  
5月号

現在  
編集中!

特集：環境首都実現へあと一歩！  
第5回 日本の環境首都コンテスト結果報告  
コンテストの結果がやっとでました！その概要、自治体職員やNGOネットワークの声、プロジェクトすすめる上でのエピソードなど、首都コンメンバが総力を挙げてお届けします。

# 今月のありがとう!

目立たないところでも、  
お力を貸してくださった方々に、  
感謝をこめて。

## 3月号ニュースレターの発送

加藤 弘典 / 鈴木 紘 / 須波 敏之 / 深澤 かおり / 三谷 斉 /  
安江 晃子  
(東京国際大学 長谷敏夫教授のゼミ生が来てくれました)  
大木 雅美 / 木下 真梨子 / 小此木 祐也 / 佐藤 光輔 /  
竹間 貴紀 / 長沢 絵莉花 / 長谷 敏夫 / 森下 範子

## 事務局作業のお手伝い

池田 伸 / 原 陽子  
《五十音順・敬称略》  
ご協力、ありがとうございました!

### 新会員の方々

2月14日から3月10日

魚見 岳史  
杉山 志保  
長谷川 敏樹  
南 和枝  
山本 房代

### 寄付

2月14日から3月10日

有川 真理子 二松 康  
下村 委津子 水野 武夫  
新宅 裕行 村中 梨砂  
中島 智 山本 房代  
永橋 為介 (五十音順、敬称略)  
長谷川 敏樹

ありがとう  
ございました!

### 新入会員 \* INTER VIEW

#### ■山本 房代さん (2月22日入会)

インターンとして昨夏から環境  
市民の活動に関わりました。環境と  
教育に関心があり、二つの要素を持つ環境共  
育チーム、SKIPとみつままプロジェクト(子  
ども対象サイト作成)に参加。同年代の仲間  
と活動できていい! 将来は教師になるか環  
境に関する仕事がしたいです!

## 環境市民に入会しよう!

環境市民は、多くのボランティアと会員の皆さんの参加によって支えられています。  
「持続可能で豊かな社会づくり」のために、ぜひ会員になって環境市民の活動を応援してください!

### ■ 会員特典

- 月刊会報誌「みどりのニュースレター」をお届けいたします。
- 行事などの参加費を割引させていただきます。
- 会員専用ブログ「ボランティア広場」への参加ができます。
- 環境に関する様々な情報を得たり、また質問や相談ができます。

### ■ 会費の振込み方法

- (1) 郵便振替の振込用紙に、住所・氏名・電話番号・会員の種類・  
送金内容事項をご記入の上、「年会費+入会金」をご入金ください。  
(※シニア・学生・助成・特別助成会員は入会金不要)
- (2) ご入金を確認後、最新のニュースレターと会員バッジ、入会記念と  
してポストカードをお届けします。

### 会費

種別	年会費	入会金
個人会員	4,000円	1,000円
ペア会員	6,000円	2,000円
シニア・学生会員	3,000円	—
ファミリー会員	8,000円	2,000円
助成会員	10,000円	—
特別助成会員	50,000円	—
終身会員	一括 80,000円	—
営利法人会員*	1口 50,000円	50,000円
非営利法人会員*	1口 10,000円	2,000円

\*年会費は一口以上

~あなたのご協力が環境市民を支えます~

♥ 寄付をする... 住所・氏名・電話番号・寄付金額をご明記の上、下記の振込先へお振り込みください。

会費・寄付のお振込み先 【郵便振替】口座番号：01020-7-76578 加入者名：環境市民

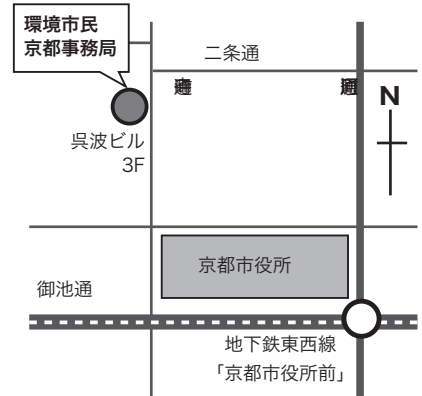
(発行) 特定非営利活動法人 環境市民 (代表) 塚本 珪一・枚本 育生 (発行人) 堀 孝弘  
【TEL】075-211-3521 【IP 電話】050-3581-7492 【FAX】075-211-3531  
【E-mail】life@kankyoshimin.org 【URL】http://www.kankyoshimin.org  
〒604-0932 京都市中京区寺町通二条下ル呉波ビル3階 (月から金 午前10:00から午後6:00)

### 環境市民・東海

【TEL&FAX】052-521-0095 【IP 電話】050-3604-6182  
【E-mail】tokai@kankyoshimin.org 【URL】http://www.kankyoshimin.org/tokai/  
〒451-0062 愛知県名古屋市中区西花の木1丁目12-12 花の木 AOIビル4階

### 環境市民・滋賀

【TEL】077-522-5837 【E-mail】cefshiga@kankyoshimin.org  
〒520-0046 滋賀県大津市長等2丁目9-12 笠文彦気付



本誌の無断複写・複製・転載を  
禁じます。

「環境市民」  
登録商標 第4809505号

この印刷物は風力発電による自然エネルギーを使用して  
古紙配合率100%再生紙に、大豆油インキで印刷しました。  
印刷：(有) 糺書房



## 環境市民

Citizens Environmental Foundation

21世紀  
地球を、地域を、生活を、  
持続可能な豊かさに

